

科目名 (英)	医学概論 Introduction to medicine	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	白井 良江
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	第2クール 期 水 曜 5 限
【実務経験】 大学病院内分泌代謝科・訪問看護・有料老人ホームに勤務し、看護師として25年以上の経験を持つ。							
【授業の学習内容】 病院・在宅医療を経て施設看護師として勤務している講師が、社会福祉士として必要な人体の構造と機能及び疾病について、医療の現状やより身近な内容を取り入れながら講義を行う。							
【到達目標】 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要・国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要・リハビリテーションの概要について社会福祉士として必要な内容を学び理解することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 医学概論 中央法規				【授業外における学習】 医療専門用語や難しい内容も多いので、予習して講義をうけるとよい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 各期の成長発達、心身の特徴、加齢・老化、健康課題を理解することができる。 【授業内容】P1～P20 P32 学習科目の目的・ライフステージにおける心身の変化と健康課題・人体の名称			9	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患について理解することができる(内分泌系) 【授業内容】P41～P42 P52 P122～P128 内分泌系の構造と機能 内分泌疾患		
2	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患について理解することができる(骨格系 筋系 血液) 【授業内容】P33～P34 P47～P48 P151～P156 血液P46 P56 P67～P68 P157～P160 骨格系、筋系の構造と機能・疾患 血液の機能・疾患			10	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患(神経系) 高次脳機能障害、認知症を理解することができる。 【授業内容】P42～P43 P53～P55 P101～P114 神経系の構造と機能 神経疾患、高次脳機能障害、認知症		
3	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患について理解することができる(感覚器) 【授業内容】P44～P45 P55～P56 P163～P175 感覚器の構造と機能 眼耳鼻の疾患と障害			11	【到達目標】 精神疾患、精神障害、発達障害、小児科疾患、肢体不自由、知的障害について理解することができる。 【授業内容】P190～P195 P196～P201 代表的な精神疾患、精神保健福祉法に定められた入院、精神障害者にかかわる際のソーシャルワーカーの視点		
4	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患について理解することができる(循環器系) 【授業内容】P34～P36 P48 P115～P121 循環器系の構造と機能 心疾患			12	【到達目標】 リハビリテーションの定義、概念を理解することができる。 【授業内容】P70～P89 リハビリテーションの定義・目的・対象・方法・		
5	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患について理解することができる(呼吸器系) 【授業内容】P38～P39 P49～P50 P129～P137 呼吸器系の構造と機能 呼吸器疾患			13	【到達目標】 健康および疾病のとりえ方、疾病と障害の成り立ちおよび回復過程について理解することができる。 【授業内容】P22～P30 P58～P67発がんまで 健康と疾病の概念 国際生活機能分類(ICF) 疾病の発生原因と成立機序		
6	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患について理解することができる(消化器系) 【授業内容】P36～P38 P49～P50 P145～P150 消化器系の構造と機能 消化器疾患			14	【到達目標】 感染症、高齢者に多い疾患、生活習慣病、内部障害、公衆衛生について理解することができる。 【授業内容】P92～P100 P202～P212 P220～P231 感染症の概要と感染対策、高齢者に多く出現する病態・疾病の特徴、高齢者の健康維持増進に必要な対策、公衆衛生の概要		
7	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患について理解することができる(泌尿器系) 【授業内容】P39～P40 P50～P51 P138～P144 泌尿器系の構造と機能 泌尿器疾患			15	【到達目標】 授業内容の理解を深め定着させることができる。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患(生殖器) 口腔疾患、悪性腫瘍について理解することができる。 【授業内容】P40～P41 P51～P52 婦人科産科P184～P189 口腔疾患P177～P182 悪性腫瘍と緩和ケアP213～P218 生殖器の構造と機能・疾患 口腔疾患 悪性腫瘍と緩和ケア			【評価について】 筆記試験による100満点の定期試験を1回実施して評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	心理学と心理的支援 (Psychology and Psychological support)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田島 葵
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 5限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 公認心理師として、発達障害児への個別療育やソーシャルスキルトレーニング、保護者への相談支援、スクールカウンセラー等の心理的支援に携わっている							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 国試突破に必要な知識・概念を、日常生活における具体的な例や事例を用いながら解説していく。また、対人援助に必要な心理学的知見を、ただの丸暗記ではなく、日常体験に置き換えて体系的に理解してもらいたい。その中で、「他者を理解すること」、「他者に寄り添うこと」、「他者を援助すること」とはどういうことなのか、学びながら考えてほしい。							
【到達目標】 ・心理学理論による人の理解(アセスメント)が出来る。 ・人の成長・発達について説明できる。 ・心理的支援の理論と技法方法について説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 新・社会福祉士養成講座 心理学理論と心理的支援 中央法規出版				【授業外における学習】 毎回の確認問題を確実に理解し、何故○なのか×なのか説明できるようにすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 現代の心理学の源流を説明できる。 心理学の研究法について説明できる。 【授業内容】 心理学の歴史 研究法			9	【到達目標】 フロイトの発達段階名からその特徴を説明できる。 エリクソンの発達段階における発達課題を順に列挙できる。 【授業内容】 発達とは 発達段階(エリクソン、フロイト)		
2	【到達目標】 認知の流れについて説明できる。 知覚の諸機能を列挙できる。 【授業内容】 感覚・知覚・認知			10	【到達目標】 各時期の環境の特徴から、発達課題を説明できる。 【授業内容】 発達段階(ピアジェ) 代表的な発達現象、愛着		
3	【到達目標】 感情に関する理論について説明できる。 動機づけの種類や理論について列挙・説明できる。 【授業内容】 感情 欲求と動機づけ			11	【到達目標】 発達障害について違いを理解し説明できる。 【授業内容】 発達障害		
4	【到達目標】 代表的な学習理論について説明できる。 学習に関する用語の違いを説明できる。 【授業内容】 レスポナント条件づけとオペラント条件づけ 学習や行動			12	【到達目標】 心理検査や知能検査について説明できる。 心理的支援における主な技法を理解し実践できる。 【授業内容】 心理アセスメント 心理的技法		
5	【到達目標】 記憶と加齢の関係を説明できる。知能の定義を説明できる。 類型論と特性論の違いを理解し分類できる。 【授業内容】 記憶の種類、知能 性格と気質、パーソナリティ			13	【到達目標】 各心理療法名からその技法を列挙できる。 各心理療法名からその悩みの構造を説明できる。 【授業内容】 心理療法		
6	【到達目標】 対人認知・社会的認知・援助行動について列挙し説明できる。 他者や集団の影響が引き起こす現象について説明できる。 【授業内容】 社会心理学 コミュニケーション			14	【到達目標】 精神保健的支援や自立の支援、心理的ケアについて違いを理解し説明できる。 【授業内容】 ソーシャルワークと心理学		
7	【到達目標】 ストレスについてホメオスタシスの観点から説明できる。 心理社会的ストレスモデルについて説明できる。 【授業内容】 ストレス 健康生成論			15	【到達目標】 自分の理解が足りない所を確認する。 形式の問題で自分が陥りやすいミスの要因を確認する。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 脳の各機能を説明できる。 各神経発達症名から特徴を列挙できる。 【授業内容】 脳と心の関係 脳機能イメージング			【評価について】 15回目に実施する定期試験(100点満点)にて評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	社会学と社会システム Sociology and Social System	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	工藤成仁
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単 位 時間	30	開講区分 曜日・時間	第2クール 月曜2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) キャリア教育プログラムの開発と実践、社会的企業のリサーチ支援。ワークショップなどで、実践を共に作る活動をしてきた。修士(教育学)。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 社会的課題へ持続的に取り組むキャリア・事業体の実現に向けて、実際の社会のあり方の理解を助け、取り組む主体の意欲や展望の形成を支えてきた。他者のニーズを汲み取る社会福祉士として、同様にニーズを持つ一人の生活者として燃え尽きずに活動を続けるためには、多様なニーズの背景への「社会的想像力」が必要である。自分なりに社会的意義と仕事のやりがいを見出すために、人と社会の関係を特に福祉を中心に学び、社会の構造・メカニズムを理解する社会学の視点を身につける。							
【到達目標】 1 社会学の見方を理解し、人と社会の関係について複数の考え方を身につける。 2 社会的課題の把握について、時代や社会構造と関連させて理解する。 3 社会学の視点をを用いて、社会福祉の意義と役割を説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新・はじめて学ぶ社会福祉 3『社会学と社会システム』ミネルヴァ書房				【授業外における学習】 予習: 授業予定箇所のテキストを読むこと 復習: テキストを読み直し、明示された重要ポイントを整理する。			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【到達目標】 社会学が扱う対象を説明できる。個人の問題を社会の問題として捉え直す見方の意義を理解する。 【授業内容】 社会学の考え方に触れ、自己が社会関係のなかで形成されるという視点(社会化・役割・アイデンティティ)を支援場面と結びつけて想像する。			9	【到達目標】 社会問題と社会政策の関係を説明できる。 【授業内容】 福祉国家、福祉レジームを中心に、社会問題の構築や支援における国家の役割、社会運動を理解する。(9章)		
2	【到達目標】 健康を個人の状態だけでなく生活・社会条件と結びつけて捉え、支援の論点を整理できる。 【授業内容】 「健康」の定義、現代社会の健康問題を理解し、制度、職場、家族、地域に働きかける福祉専門職の役割を理解する。(2章)			10	【到達目標】 コミュニティとつながりを理解し、支援・地域づくりと関連づけられる。 【授業内容】 生活の多様化とコミュニティの変化から、ソーシャル・キャピタルの重要性を理解し、社会福祉からの地域支援・アウトリーチを想像する。(10章)		
3	【到達目標】 家族をめぐる基本概念と、家族の変容を説明できる。少子化・子育て・介護・多様な家族について、政策や支援と繋げて考えられる。 【授業内容】 家族の基本概念と現代社会で起こった変化を理解する。それに伴う課題と政策から支援ニーズを考察する。(3章)			11	【到達目標】 日本で暮らす外国人の生活課題を制度と結びつけて説明できる。多文化共生の論点を整理できる。 【授業内容】 人種、エスニシティ、ナレーションを理解し、社会保障や教育課題などを題材に、支援現場での留意点を検討する。(11章)		
4	【到達目標】 「働くこと」が生活・自己理解・社会参加に与える影響を説明できる。労働問題を生活課題とつながって把握できる。 【授業内容】 雇用の形態の差や内実の変化を理解し、ワーク・ライフ・バランス、労働問題について考える。(4章)			12	【到達目標】 人口動態や環境問題といったマクロな社会の動きと、生活課題や社会の持続可能性との関連を説明できる。 【授業内容】 人口に関する基礎知識、日本の人口減少と少子高齢化、環境問題と持続可能な開発を、福祉・政策課題として検討する。(12章)		
5	【到達目標】 格差・貧困を複数の側面から捉えられる。再生産の解消に資する福祉の役割を理解する。 【授業内容】 経済格差、教育格差、男女格差の社会構造的な生産を理解し、社会的孤立に対して、必要な資源や支援への接続の課題を理解する。(5章)			13	【到達目標】 社会のシステムと社会の変動に関する、多様な課題意識と説明を理解する。 【授業内容】 複数の社会学の成果を概観し、課題意識とテーマから社会の「システム」を構想する考え方を学ぶ。(13章)		
6	【到達目標】 差別・偏見が生まれる社会的メカニズムを理解する。 【授業内容】 ラベリング理論と逸脱、スティグマ概念を理解し、支援者としての関わり方を学ぶ。(6章)			14	【到達目標】 社会集団と組織の基本的な概念を説明できる。 【授業内容】 社会集団、組織の特徴と課題を整理し、多様な福祉の現場(行政、施設、NPO、地域組織等)を社会学の見方で想像する。(14章)		
7	【到達目標】 家庭内暴力を社会問題として整理できる。 【授業内容】 家庭内暴力のあらわれ方を概観し、予防・介入・連携の基本を理解する。(7章)			15	【到達目標】 主要概念を用いて生活課題を社会的に説明できる。 【授業内容】 定着をたしかめるため、テストを実施する。		
8	【到達目標】 災害を生活課題との関連から理解する。 【授業内容】 災害の定義と被災の現実を理解し、繰り返し被災しうる日本社会における持続的な社会運営を考える。(8章)			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	社会福祉の原理と政策 (Social Welfare:Principles and Policies)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西垣美穂子
		授業 形態	講義	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	前期(第1クール) 月 曜 4・5 限
学科・コース	社会福祉士養成科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 社会福祉士の国家資格を取得後、大学院で保育や子どもの福祉、育つ環境について研究に携わり、非常勤講師として看護学校や専門学校で社会福祉学等を教えた。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 社会福祉士の国家資格を取得後、大学院で保育や子どもの福祉、育つ環境について研究に携わり、非常勤講師として看護学校や専門学校で社会福祉学等を教えた。本科目は社会福祉士国家試験においても、社会福祉を理解する上でも基礎となる科目である。社会福祉の全体の制度、役割、倫理、現状などについて、今の日本や海外の動きに注目しながら学んでほしい。社会生活を営む上での福祉の持つ役割をしっかりと身につけてほしい。							
【到達目標】 ①現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。②福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。③福祉政策の課題について理解する。④福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。)について理解する。⑤福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策を含む。)の関係について理解する。⑥相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座『社会福祉の原理と政策』一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集				【授業外における学習】 毎回、授業で新しい単元を行うため、復習を行い授業に臨むこと。また現代の社会福祉の現状についても多く問われるので、目頃からニュースに目を通すこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【到達目標】 社会福祉の原理とは何かについて、現代社会における社会福祉の重要性と福祉制度・政策について理解できる。 【授業内容】 この科目の概要と内容について 社会福祉の原理(その意味と展開)			17・18	【到達目標】 日本の社会福祉制度の体系について、社会福祉法、事業、担い手、現在の社会福祉基礎構造改革について理解することができる。 【授業内容】 社会福祉の政策の構成要素と過程		
3・4	【到達目標】 社会福祉が向き合う社会問題について、家族ケアを中心に理解できる。 【授業内容】 現代における社会問題(1)			19・20	【到達目標】 福祉政策について、現在の動向と課題について理解できる。 【授業内容】 福祉政策の動向と課題		
5・6	【到達目標】 社会福祉が向き合う社会問題について、人口構造、産業構造、労働を中心に理解できる。 【授業内容】 現代における社会問題(2)			21・22	【到達目標】 福祉政策におけるニーズと資源について理解することができる。必要と受容の関係性・福祉政策の資源について理解することができる。 【授業内容】 福祉政策におけるニーズと資源		
7・8	【到達目標】 社会福祉の歴史について欧米の発展過程から、理解できる。 【授業内容】 社会福祉の歴史(1)			23・24	【到達目標】 現在の社会福祉の給付と規制、福祉サービスの供給と利用について理解することができる。 【授業内容】 福祉サービスの供給と利用の過程		
9・10	【到達目標】 社会福祉の歴史について日本の発展過程から、理解できる。 【授業内容】 社会福祉の歴史(2)			25・26	【到達目標】 日本の保健医療政策の特徴と福祉の連携等、福祉政策と関連政策について理解することができる。また現代の社会福祉政策の課題について理解することができる。 【授業内容】 福祉政策の関連領域(1)		
11・12	【到達目標】 価値規範としての福祉について目的概念、価値、社会福祉の範囲と定義について理解することができる。福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解することができる。 【授業内容】 社会福祉の思想・哲学・理論			27・28	【到達目標】 日本の教育政策、住宅政策との連携等、福祉政策と関連政策について理解することができる。また現代の社会福祉政策の課題について理解することができる。 【授業内容】 福祉政策の関連領域(2)		
13・14	【到達目標】 社会福祉政策について、日本の法律体系から理解できる。 【授業内容】 社会福祉政策とは何か			29・30	【到達目標】 自分の学びを振り返り、問題に答えることができる。分からない問題の洗い出しをし、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 定期末試験・解答解説		
15・16	【到達目標】 授業の振り返りの試験を行う。自分の学びを振り返り、問題に答えることができる。分からない問題の洗い出しをし、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 定期末試験、解答解説			【評価について】 15回目に実施する定期試験(100点満点)にて評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	社会福祉調査の基礎 Social welfare survey	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	工藤成仁
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	第2クール 月曜3限
学科・コース	社会福祉士養成科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) キャリア教育プログラムの開発と実践、社会的企業のリサーチ支援、ワークショップなどで、実践を共に作る活動をしてきた。修士(教育学)。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 社会的課題へ持続的に取り組むキャリア・事業体の実現に向けて、実際の社会のあり方の理解を助け、取り組む主体の意欲や展望の形成を支えてきた。現代の社会福祉ニーズの変容や多様化に対して、福祉の現場で効果的かつ自信をもって活動するためには、新たな論点の調査やデータを正確に理解できる必要がある。調査やデータを現場で活用し、調査の実施の際には必要に応じて学び直せる素地を養うために、福祉の社会調査の理論と手法を学び基礎を身につける。							
【到達目標】 1 社会福祉調査の意義を理解する。 2 現代における社会問題や社会の実態について、調査により理解する方法と、調査・データの見方や活用する方法を理解する。 3 社会調査の困難を実感し、実施のための解決策を模索する素地を養う。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新・はじめて学ぶ社会福祉 5『社会福祉調査の基礎』ミネルヴァ書房				【授業外における学習】 予習：授業予定箇所のテキストを読むこと 復習：テキストを読み直し、明示された重要ポイントを整理する。			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【到達目標】 社会福祉調査の意義と目的、その定義を理解し、調査が社会に果たす役割を確認する。 【授業内容】 オリエンテーション。社会や社会福祉の形が調査によって「形作られる」ことを検討する。(1章)			9	【到達目標】 質的調査の目的と位置づけを理解し、量的調査との違いを説明できる。 【授業内容】 質的調査の目的と特徴を押さえ、問いの立て方、「何をデータとみなすか」を理解し、量的調査との使い分けを整理する。(11章)		
2	【到達目標】 社会福祉調査の歴史的な変遷について、近代以前、近代以降の流れとして整理できる。 【授業内容】 福祉サービスと社会福祉調査、社会福祉の歴史関係を理解し、今日の調査が求められる背景を整理する。(2章)			10	【到達目標】 観察法・面接法の基本と、実施上の留意点を説明できる。 【授業内容】 観察法・面接法の方法の特徴と留意点を整理し、視点と質問の組み立てを学ぶ。インタビューガイド作成を試す。(12章)		
3	【到達目標】 社会福祉調査の基本プロセスを説明できる。 【授業内容】 調査における考え方、仮説や論理と先行研究の調査、方向性と妥当性を理解し、テーマ設定から報告までのプロセスを概観する。(5章)			11	【到達目標】 記録の方法を確認し、質的調査によって得られるデータの活用や応用を整理し、実際の活用における留意点を理解する。 【授業内容】 逐語化と匿名化、コード化とカテゴリ化を理解し、客観性を担保する工夫を学ぶ。(13章)		
4	【到達目標】 社会福祉調査の倫理的課題と、個人情報保護の基本を説明できる。 【授業内容】 専門職倫理の観点から、説明、同意、撤回、負担とリスクなどの倫理的配慮の基本を理解する。(4章)			12	【到達目標】 ソーシャルワーク実践における評価の意義と評価対象を理解し、評価の基本的な枠組みを説明できる。 【授業内容】 評価の意義を整理し、評価対象、評価枠組を学ぶ。(14章)		
5	【到達目標】 量的調査の特徴と限界を理解し、調査目的に応じて対象設定とサンプリングの考え方を説明できる。 【授業内容】 量的調査の目的と方法、分析単位と調査対象、標本抽出を学習する。公的統計の位置付けについて確認する。(3,6,7章)			13	【到達目標】 代表的な評価方法を概観し、目的に応じた方法選択の考え方を説明できる。 【授業内容】 実験計画法、シングルシステムデザイン、質的研究による評価を学ぶ。(15章)		
6	【到達目標】 質問紙の作成と、配布から回収後までの実務の流れを説明できる。 【授業内容】 質問紙作成のための尺度、信頼性と妥当性などの基本の理解、項目の作成、配布・回収の流れを学ぶ。(8,9章)			14	【到達目標】 実践例を通して、調査の企画から報告までの流れを追い、現場の支援や計画づくりにどう組み込まれるかを把握する。 【授業内容】 実践例から、計画や評価適切な選び方を学ぶ。(16,17章)		
7	【到達目標】 量的データ分析の流れを理解し、集計から整理までの基本操作を説明できる。 【授業内容】 データ分析までの流れ(入力→整理→集計→解釈)の理解と、グラフの読み取りを理解する。(10章)			15	【到達目標】 授業内容を整理し、基礎概念と手順を用いて基礎的な社会調査計画を提示できる。 【授業内容】 定着をたしかめるため、テストを実施する。		
8	【到達目標】 得られたデータの整理や、データを使つての活用を行えるよう統計的検定の目的を理解し、代表的な検定手法と概念を説明できる。 【授業内容】 統計的検定とは何か、基本的な検定手法(帰無仮説、有意水準)と理解の注意点(第1種/第2種の過誤)を把握する。(10章)			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	Foundation and Profession of Social work ソーシャルワークの基盤と専門職【共通】	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	末田 謙
学科・コース	社会福祉士養成	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 金曜 3 限
【実務経験】(編出する授業科目に関連した実務経験) 医療機関で約15年、精神科病棟、一般内科病棟、回復期リハビリ病棟、介護老人保健施設で入院支援業務の勤務経験を要する社会福祉士・精神保健福祉士							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 文章や理論だけでは理解しづらい内容を医療機関での社会福祉士、精神保健福祉士の経験を生かして分かりやすく説明を行う。そして、現場ならではの職種間の価値観や立場の違いによるずれ違いや課題、ジレンマ、体験等を説明した上で、共に解決策を考える事を通じて社会福祉士に必要な実践的な臨床力とチーム形成力を養う。							
【到達目標】 ①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・ソーシャルワークの基盤と専門職【共通・社会専門】中央法規				【授業外における学習】 授業内で行うテストやテキストの内容を復習し、模試や過去問を解くということを繰り返し基礎知識の習得と問題を解く経験を養ってください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 ・ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士について及び社会福祉士、介護福祉士法について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ【1章・1節、2節】			9	【到達目標】 ・ソーシャルワークの源流と基礎確立期について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの形成過程【4章・1節】		
2	【到達目標】 ・精神保健福祉士法について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ【1章・3節】			10	【到達目標】 ・ソーシャルワークの発展期について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの形成過程【4章・2節】		
3	【到達目標】 ・社会福祉士および精神保健福祉士の専門性について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ【1章・4節】			11	【到達目標】 ・ソーシャルワークの展開期と統合化について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの形成過程【4章・3節】		
4	【到達目標】 ・社会福祉士、精神保健福祉士の専門性・求められるコンピテンシーについて理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ【1章・5節】			12	【到達目標】 ・日本におけるソーシャルワークの形成過程について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの形成過程【4章・4節】		
5	【到達目標】 ・ソーシャルワークの定義について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの概念【2章・1節】			13	【到達目標】 ・専門職倫理の概念、倫理綱領について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの倫理【5章・1節、2節】		
6	【到達目標】 ・ソーシャルワークの構成要素について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの概念【2章・2節】			14	【到達目標】 ・倫理綱領、倫理的ジレンマについて理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの倫理【5章・2節、3節】		
7	【到達目標】 ・ソーシャルワークの原理について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの基盤となる考え方【3章・1節】			15	【到達目標】 これまでに学んだ内容について理解度の確認と課題を抽出する。 【授業内容】 定期試験(前)		
8	【到達目標】 ・ソーシャルワークの理念について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの基盤となる考え方【3章・2節】			【評価について】 15回目に実施する定期試験(100点満点)にて評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	Foundation and Profession of Social work ソーシャルワークの基盤と専門職 [社会専門]	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	末田 譲
学科・コース	社会福祉士養成	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 3 限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 医療機関で約15年、精神科病棟、一般内科病棟、回復期リハビリ病棟、介護老人保健施設で入退院支援業務の勤務経験を要する社会福祉士・精神保健福祉士							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 文章や理論だけでは理解しづらい内容を医療機関での社会福祉士、精神保健福祉士の経験を生かして分かりやすく説明を行う。そして、現場ならではの職種間の価値観や立場の違いによるすれ違いや課題、ジレンマ、体験等を説明した上で、共に解決策を考える事を通じて社会福祉士に必要な実践的な臨床力とチーム形成力を養う。							
【到達目標】 ①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。 ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。 ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・ソーシャルワークの基盤と専門職 [共通・社会専門] 中央法規				【授業外における学習】 授業内で行うテストやテキストの内容を復習し、模試や過去問を解くということを繰り返し基礎知識の習得と問題を解く経験を養ってください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 ・ソーシャルワーク専門職の概念と範囲について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 [6章・1節]			9	【到達目標】 ・総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点を理解できる。 【授業内容】 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 [8章・1節]		
2	【到達目標】 ・社会福祉士の職域と役割について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 [6章・2節]			10	【到達目標】 ・ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容について理解できる。 【授業内容】 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 [8章・2節]		
3	【到達目標】 ・多様な組織、機関、団体における専門職について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 [6章・3節]			11	【到達目標】 ・多職種連携およびチームアプローチの意義と内容について理解できる。 (1) 【授業内容】 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 [8章・3節]		
4	【到達目標】 ・諸外国の動向について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 [6章・4節]			12	【到達目標】 ・多職種連携およびチームアプローチの意義と内容について理解できる。 (2) 【授業内容】 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 [8章・3節]		
5	【到達目標】 ・ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲の復習 【授業内容】 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 [6章]			13	【到達目標】 ・総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容の復習 【授業内容】 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 [8章]		
6	【到達目標】 ・ミクロ、メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象について理解できる。 【授業内容】 ミクロ、メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワーク [7章・1節]			14	【到達目標】 学んだ内容の総復習と課題抽出 【授業内容】 ソーシャルワークの基盤と専門職 [6章～8章: 社会専門]		
7	【到達目標】 ・ミクロ、メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開について理解できる。 【授業内容】 ミクロ、メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワーク [7章・2節]			15	【到達目標】 これまでに学んだ内容について理解度の確認と課題を抽出する。 【授業内容】 定期試験(後)		
8	【到達目標】 ・ミクロ、メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワークの復習。 【授業内容】 ミクロ、メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワーク [7章]			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	ソーシャルワークの理論と方法(共通) Social Work Theory and Methods(common)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小島 知子
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	第1クール 水 曜 4・5 限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 障害児地域療育、重度重症児の訪問療育、発達相談、障害者支援施設などで支援員・相談員として併せて40年以上の勤務経験がある。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) ソーシャルワークの基本的な理論と方法について、実務経験を活かし、適宜、事例なども紹介して、具体的なイメージが持てるような授業を展開する。本科目はソーシャルワークの基礎となる理論と方法を学ぶ科目であり、テキスト・レジュメで重要項目を確認するとともに、事例検討、DVD視聴なども適宜取り入れて、理解を深める。また、国家試験での解答力をつけるために、過去問題を解く時間を適宜設ける。							
【到達目標】 ・ソーシャルワークにおける人と環境の交互作用に関する理論、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークを理解する。 ・ソーシャルワークの過程とそれにかかる知識と技術について理解する。 ・ソーシャルワークの様々な実践モデル、アプローチ、コミュニティワークの概念と展開等について理解する。その他ソーシャルワークに関連する諸技術、知識を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 新・社会福祉士養成講座⑦『ソーシャルワークの理論と方法(共通)』 中央法規 講師が用意する授業レジュメ・資料				【授業外における学習】 メディアによる多様な社会問題の記事・ニュースに触れ、社会の動きを捉える。社会福祉に関する多分野、多地域の課題や取り組みに関心を持つ。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 人と環境の交互作用を理解し、ソーシャルワーカーが学ぶべき理論を把握する。 【授業内容】 システム論、生態学理論に基づくソーシャルワーク理論の概要。ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワークの概要			9	【到達目標】 ソーシャルワークにおける記録の意義、目的、技術を理解する。 【授業内容】 ソーシャルワークにおける記録の意義、目的、主な記録法と様式		
2	【到達目標】 ソーシャルワークのプロセスを理解する1 【授業内容】 ケース発見からインテーク、アセスメントまでのプロセスの要点			10	【到達目標】 ソーシャルワークにおけるケアマネジメント、コミュニティワークについて理解する。 【授業内容】 ソーシャルワークにおけるケアマネジメント。コミュニティワーク、地域アセスメント 地域組織化等の要点		
3	【到達目標】 ソーシャルワークのプロセスを理解する2 【授業内容】 プランニングから支援の実施、モニタリング、終結とアフターケアに至るプロセスの要点			11	【到達目標】 ソーシャルワークにおけるグループワークの意義と方法を理解する。 【授業内容】 ソーシャルワークにおけるグループワークの意義と方法。準備期～終結期に至る展開過程の要点		
4	【到達目標】 1～3の学習のまとめ 【授業内容】 1～3回の授業の学習のまとめ。レジュメに沿って要点を再確認する。			12	【到達目標】 9～11の学習のまとめ 【授業内容】 9～11授業の重要事項を再確認		
5	【到達目標】 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを理解する1 【授業内容】 3つのモデルと心理社会的アプローチから問題解決アプローチ等20世紀前半から中盤にかけて登場したアプローチの概要。			13	【到達目標】 ソーシャルワークにおけるソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションの概要。 【授業内容】 ソーシャルワークにおけるソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションの概要と事例		
6	【到達目標】 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを理解する2 【授業内容】 20世紀後半にかけて登場した主なアプローチの概要、実際の活用例。			14	【到達目標】 ソーシャルワークにおけるスーパービジョンとコンサルテーションの技術を理解する。 【授業内容】 ソーシャルワークにおけるスーパービジョン関係、形態、コンサルテーションの概要		
7	【到達目標】 ソーシャルワークにおける面接の構造、スキルの要点について理解する 【授業内容】 面接の流れ、形態、質問法、要約、ポジショニング主な技法の要点			15	【到達目標】 本科目の学習のまとめ・定期試験 【授業内容】 本科目で学習した内容を再確認する。・定期試験		
8	1～7の学習のまとめ・定期試験 【授業内容】 1～7授業の重要項目を再確認 定期試験			【評価について】 五肢択一問題により行う。授業内で確認した基本的な知識・技術の理解、定着度を確認する。5肢択一試験による定期試験 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価			
【特記事項】 疑問点は積極的に質問してください。							

科目名 (英)	ソーシャルワークの理論と方法(専門) Social Work Theory and Methods(specialty)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小島 知子
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	第2クール 木 曜 4・5 限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 障害児地域療育、重度重症児の訪問療育、発達相談、障害者支援施設などで支援員・相談員として併せて40年以上の勤務経験がある。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かし、どのような教育を行うか) ソーシャルワークの基本的な理論と方法について、実務経験を活かし、適宜、事例なども紹介して、具体的なイメージが持てるような授業を展開する。本科目はソーシャルワークの基礎となる理論と方法を学ぶ科目であり、テキスト・レジュメで重要項目を確認するとともに、事例検討、DVD視聴なども適宜取り入れて、理解を深める。また、国家試験での解答力をつけるために、過去問題を解く時間を適宜設ける。							
【到達目標】 ・複雑化・多様化する社会問題に対応していくために実践的かつ効果的なソーシャルワークの理論と方法を理解する。 ・地域における社会資源の開発、地域住民が主体的に地域の課題解決に取り組んでいける体制構築等についての知識と技術について理解する。 援助関係の形成、ニーズの掘り起こしを行うための知識と技術について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 新・社会福祉士養成講座⑦『ソーシャルワークの理論と方法(専門)』中央法規 講師が用意する授業レジュメ・資料				【授業外における学習】 メディアによる多様な社会問題の記事・ニュースに触れ、社会の動きを捉える。社会福祉に関する多分野、多地域の課題や取り組みに関心を持つ。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 多様化・複雑化した生活課題への対応とそのプロセス、スキルの理解1 【授業内容】 家族の理解と家族支援の実際			9	【到達目標】 ソーシャルワークにおける事例分析・事例研究を理解する。 【授業内容】 事例分析・事例検討・事例研究の目的・要点		
2	【到達目標】 多様化・複雑化した生活課題への対応とそのプロセス、スキルの理解2 【授業内容】 地域支援の実際、非常時、災害時支援の実際			10	【到達目標】 ソーシャルワークに関連する技法を理解する1 【授業内容】 ネゴシエーション、コンフリクト・レゾリューションの概要		
3	【到達目標】 ソーシャルワークの援助関係の形成の理解 【授業内容】 自己覚知、バISTECKの原則、エンパワメント、ストレングス等の要点			11	【到達目標】 ソーシャルワークに関連する技法を理解する2 【授業内容】 ファシリテーションの概要		
4	【到達目標】 1～3の学習のまとめ 【授業内容】 1～3回の授業の学習のまとめ、レジュメに沿って要点を再確認する。			12	【到達目標】 9～12の学習のまとめ 【授業内容】 9～12授業の重要事項を再確認		
5	【到達目標】 ソーシャルワークのネットワーク形成について理解する 【授業内容】 ネットワークの機能、構築 コーディネーションの意義、目的、ソーシャル キャピタル等の要点			13	【到達目標】 ソーシャルワークに関連する技法を理解する3 【授業内容】 プレゼンテーションの概要と実例		
6	【到達目標】 ソーシャルワークの社会資源活用、開発を理解する 【授業内容】 社会資源の活用と調整 開発の要点			14	【到達目標】 ソーシャルワーク実践の実際に触れる。 【授業内容】 ソーシャルワーク実践の事例の読み合わせ、動画視聴等		
7	【到達目標】 ソーシャルワークにおけるカンファレンスの構造、方法について理解する 【授業内容】 会議の留意点、ミクロ・メゾ・マクロの会議の概要と留意点			15	【到達目標】 本科目の学習のまとめ・定期試験 【授業内容】 本科目で学習した内容を再確認する。・定期試験		
8	1～7の学習のまとめ・定期試験 【授業内容】 1～7授業の重要項目を再確認 定期試験			【評価について】 五肢択一問題により行う。授業内で確認した基本的な知識・技術の理解、定着度を確認する。5肢択一試験による定期試験 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価			
【特記事項】 疑問点は積極的に質問してください。							

科目名 (英)	地域福祉と包括的支援体制 (Community Welfare & Comprehensive support system)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	若尾 尚子
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	前期 火曜 4・5限
【実務経験】 県福祉事務所の相談員として4年、病院の医療ソーシャルワーカーとして10年以上勤務し、地域におけるソーシャルワークの協働を実践した経験を持つ。							
【授業の学習内容】 病院の地域連携室・医療福祉相談室で医療ソーシャルワーカーとして10年以上、また県福祉事務所の相談員など長年ソーシャルワーク業務に従事してきた担当教員が、実践で培った経験をもとに、事例やディスカッションを交えながら講義を進める。本科目では、地域福祉の基本的考え方、展開、動向を理解し、地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の意義と実際、展開を学ぶ。							
【到達目標】 ①地域福祉の基本的な考え方、地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 ②地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と役割、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 ③包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解し、社会福祉士の役割とソーシャルワークの展開について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新・社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制 中央法規出版				【授業外における学習】 過去問題や模擬試験で問われた該当部分について確認すること。また、関連する報道等に関心を持ちチェックをすること。			
回	授業概要			回	授業概要		
1・2	【到達目標】 わが国の社会福祉の流れと「地域福祉と包括的支援体制」の科目について理解できる。地域社会の概念と理論、地域社会の変化について理解できる。 【授業内容】 イントロダクション 第1章 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題			17・18	【到達目標】 非常時や災害時における法制度を理解できる。 【授業内容】 第6章 災害時における総合的かつ包括的な支援体制		
3・4	【到達目標】 多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ、地域福祉と社会的孤立について理解できる。地域福祉の概念と理論、地域福祉の歴史について理解できる。 【授業内容】 第1章 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題 第4章 地域福祉の基本的な考え方			19・20	【到達目標】 避難所の諸問題を知り、避難所を運営する上での注意点が理解できる。 【授業内容】 第6章 災害時における総合的かつ包括的な支援体制		
5・6	【到達目標】 地域福祉のさまざまな推進主体について理解できる。 【授業内容】 第4章 地域福祉の基本的な考え方			21・22	【到達目標】 非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援について理解できる。 【授業内容】 第6章 災害時における総合的かつ包括的な支援体制		
7・8	【到達目標】 地域福祉のさまざまな推進主体について理解できる。 【授業内容】 第4章 地域福祉の基本的な考え方			23・24	【到達目標】 地域を基盤としたソーシャルワークの方法、住民の主体形成に向けたアプローチ、具体的な展開について理解できる。 【授業内容】 第5章 地域を基盤としたソーシャルワークの展開		
9・10	【到達目標】 地域福祉の推進と福祉教育の課題について理解できる。地域共生社会の考え方について理解できる。 【授業内容】 第4章 地域福祉の基本的な考え方 第2章 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制			25・26	【到達目標】 福祉計画の目的、市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉計画の内容、策定方法、ニーズ把握の方法・技術、福祉計画の評価について理解できる。 【授業内容】 第7章 福祉計画の意義と種類、策定と運用		
11・12	【到達目標】 包括的支援体制、地域共生社会の構築と実現に向けた各種施策について理解できる。 【授業内容】 第2章 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制			27・28	【到達目標】 国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、福祉行政の組織および専門職の役割、福祉における財源について理解できる。 【授業内容】 第8章 福祉行政システム		
13・14	【到達目標】 地域福祉ガバナンスにおける多職種連携、福祉以外の分野との他機関協働の仕組みや実際について理解できる。 【授業内容】 第3章 地域福祉ガバナンスと多機関協働			29・30	【到達目標】 科目後半の重点箇所の確認と定期試験を通じて、教科全体の到達目標の達成度を計ることができる。 【授業内容】 総まとめ 講義／定期試験(後)		
15・16	【到達目標】 科目前半の重点箇所の確認と定期試験を通じて、到達目標の達成度を計ることができる。 【授業内容】 定期試験(前)／講義			【評価について】 筆記試験による100点満点の定期試験を2回実施。点数を合算し試験回数で割り、以下に換算して評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	福祉サービスの組織と経営	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田邊慎悟
学科・コース	社会福祉士一般養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後 期 木 曜 3 限
【実務経験】(編入する授業科目に関連した実務経験) 大学院において、社会保障制度の研究を行い、その後15年ほど年金・医療・介護・資金計画等で経営コンサルティングに携わっている。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 研究だけではなく、実務双方からの授業を行い、資格試験対策だけではなく、その後の実務でも生かせるよう工夫していく。全体を通して、福祉サービスの組織と経営の制度を理解し、実践の場での利用できる制度まで、ご自身にとって生涯役立つ内容を教授していく。							
【到達目標】 福祉サービスの組織と経営を理論、実践から正しく理解し、臨床において活躍できる人材養成を行う。また、社会福祉士国家取得対策としてその知識をまかなう。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新版「福祉サービスの組織と経営」(中央法規)				【授業外における学習】 授業終了後の復習を怠らないこと。社会福祉に関連する組織や経営のニュースなど日ごろから新聞等を用いて注目しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 福祉サービスを提供する組織や管理について理解し、説明できるようになる。社会福祉法人の役割、形態を説明できるようになる。 【授業内容】 第1章 福祉サービスに係る組織や団体の概要 第1節 福祉サービスを提供する組織(特に社会福祉法人、特定非営利活動法人)			9	【到達目標】 社会福祉法人と企業では、財務管理の目的が異なることを理解する。事業活動計算書、資金収支計算書の違いを理解し、説明できるようになる。 【授業内容】 第3章 福祉サービス提供組織の経営と実際 第5節 会計管理と財務管理		
2	【到達目標】 法人の基本形態を理解する。その中でも医療法人や営利法人の役割、形態を説明できるようになる。 【授業内容】 第1節 福祉サービスを提供する組織(特に医療法人、営利法人) 第2節 福祉サービスの沿革と概況			10	【到達目標】 人材マネジメントの基本的内容を知り、福祉人材マネジメントの特性を理解、説明できるようになる。 【授業内容】 第3章 福祉サービス提供組織の経営と実際 第5節 会計管理と財務管理 第4章 福祉人材のマネジメント		
3	【到達目標】 福祉サービスの沿革を確認し、これまでの経緯を把握する。組織間連携とは何かを理解し、その意義について説明できるようになる。 【授業内容】 第1章 福祉サービスに係る組織や団体の概要 第2節 福祉サービスの沿革と概況 第3節 組織間連携と促進			11	【到達目標】 福祉人材の必要性についての理解を深める。組織における人材育成の仕組みと方法を理解し、実務でも役立てられるようになる。 【授業内容】 第4章 福祉人材のマネジメント 第1節 福祉人材マネジメント、第2節 福祉人材の育成		
4	【到達目標】 福祉分野における組織の特徴と特異性を学び、ご自身で説明できるようになる。 【授業内容】 第3節 組織間連携と促進 第2章 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 第1節 組織運営に関する基礎理論など			12	【到達目標】 福祉人材にとって働きやすい労働環境とは何かを知り、説明できるようになる。労務管理の基本を理解する。 【授業内容】 第4章 福祉人材のマネジメント 第3節 働きやすい労働環境の整備、問題演習		
5	【到達目標】 集団の概念、および個人の集合を超えた集団独特の特性を理解する。リーダーシップ論を理解し、実務でも役立てられるようになる。 【授業内容】 第2章 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 第2節 集団の力学に関する基礎理論 第3節 リーダーシップに関する基礎理論			13	【到達目標】 五肢択一式の問題をもとに、国家試験対策を行う。試験で解けるようになるほか、その後の私生活、仕事においても活かせるような演習を行っていく。 【授業内容】 予想問題・過去問題による演習		
6	【到達目標】 社会福祉法人と理事等・株式会社と取締役等の関係を理解する。コンプライアンス、ガバナンスの意味を理解し、実務でも役立てられるようになる。 【授業内容】 第3章 福祉サービス提供組織の経営と実際 第1節 経営体制 第2節 福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス			14	【到達目標】 五肢択一式の問題をもとに、国家試験対策を行う。試験で解けるようになるほか、その後の私生活、仕事においても活かせるような演習を行っていく。 【授業内容】 予想問題・過去問題による演習		
7	【到達目標】 福祉経営の特質は何かを理解する。経営戦略やマーケティングなどの用語を理解し、使えるようになる。 【授業内容】 第3章 福祉サービス提供組織の経営と実際 第3節 適切な福祉サービスの経営管理			15	【到達目標】 期末試験にて合格点に到達する。解答解説を聞き、間違えたところを確認、その後の模試や本試験で活かせるようになる。 【授業内容】 期末試験および解答解説		
8	【到達目標】 福祉経営における事例を通し、自分自身が理想とする福祉経営の姿を考察できるようになる。 【授業内容】 第3章 福祉サービス提供組織の経営と実際 第3節 適切な福祉サービスの経営管理 第4節 情報管理			【評価について】 定期試験1回(100点満点)にて評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 日頃から組織経営に関心を持ち、新聞やニュース、雑誌などで最新情報を把握しておくこと							

科目名 (英)	社会保障 Social security	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	廣澤茉莉亜
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 4-5 限
【実務経験】 大学院にて、日本の貧困問題にかかわる社会保障の歴史について研究している。また、NPOにて、生活困窮者自立支援制度における諸事業に携わっている。							
【授業の学習内容】 社会保障の概念・理念、機能、歴史、制度の構造、概要に関する基本的な知識を習得する。その目的は、第1に、フォーマルな社会資源としての社会保障制度に対する理解を得ること。第2に、社会保障制度には、ソーシャルワークとは別の、制度政策の機能や目的があるため、制度設計の理念が、ソーシャルワークの理念と必ずしも一致するものではないことを学び、社会保障の背景とソーシャルワークの価値観という両者の関係を理解することを目的とする。							
【到達目標】 ソーシャルワーカーを志す受講生が、クライアントのニーズを踏まえて必要な支援に繋ぐ土台として、社会保障制度に対する知識や理解を得ることを目指す。また、受講生自身が、それぞれのライフステージにおいて活用可能な制度について、十分な知識を修得することを目指す。ひいては、社会保障にかかわる課題を構造的に把握し、ソーシャルワーカーかつ市民として、どのような社会保障のあり方や、社会問題の解決のしかたを望むか、考える力を養うことを目指す。							
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：社会福祉士養成講座「社会保障 第2版」(中央法規) 参考書：梶野美智子、田中耕太郎「はじめての社会保障 第22版」有斐閣				【授業外における学習】 社会保障をめぐる問題について、日頃より新聞等から情報を得てほしい。授業内容を踏まえ、社会保障をめぐる問題について考えるように努められたい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【到達目標】 なぜ社会保障を学ぶのかを理解する。 社会保障の概念と理念について把握する。 【授業内容】 シラバス、刊行にあたって、はじめに、目次 第2章「社会保障の概念や対象およびその理念」～第4節			17・18	【到達目標】 社会保障という全体像の中で、社会保険と社会扶助の関係をつかむ。社会保険と民間保険の相違について理解する。 【授業内容】 第4章「社会保険・社会扶助・民間保険の関係」		
3・4	【到達目標】 代表的な社会保険である医療保険の全体像を理解する。社会保険の仕組みと沿革、考え方を学ぶ。公費助成制度を把握する。 【授業内容】 第5章第1節「医療保険制度の概要」			19・20	【到達目標】 各種社会保障制度が、どのような歴史的経緯をもって今に至るのか、その展開過程を学ぶ。 【授業内容】 第2章第5節「社会保障制度の展開」		
5・6	【到達目標】 生存権に基づく生活保護の考え方や仕組みを理解する。社会保険との対比において、その位置づけを学ぶ。 【授業内容】 第5章第5節「生活保護制度の概要」			21・22	【到達目標】 主要国の社会保障について学び、各国の制度における特徴や相違、日本の社会保障の特質を理解する。 【授業内容】 第6章「諸外国における社会保障制度」～第1節		
7・8	【到達目標】 医療保険と生活保護の講義を踏まえて、各種社会手当・社会福祉制度の位置づけと特色を理解する。 【授業内容】 第5章第6節「社会手当制度の概要」 第5章第7節「社会福祉制度の概要」			23・24	【到達目標】 社会保障が果たす役割や機能について復習しながら、社会保障の財政について、財源の種類や割合、調整などについて理解する。 【授業内容】 第3章「社会保障の財政」		
9・10	【到達目標】 新しい社会保険である介護保険制度について、その沿革と基本的な仕組みを理解する。医療保険、生活保護と対比して学ぶ。 【授業内容】 第5章第2節「介護保険制度の概要」			25・26	【到達目標】 人口動態・雇用形態の変化について理解し、その影響について学び、現在の社会保障の直面する課題について考える力を養う。 【授業内容】 第1章「現代社会と社会保障」 第6章第2節「社会保障の国際比較」		
11・12	【到達目標】 長期保険である年金について、基本的な仕組みを理解する。社会保険における金銭給付を学び、背景にある考え方を把握する。 【授業内容】 第5章第3節「年金制度の概要」			27・28	【到達目標】 これまでの講義を踏まえ、現行の社会保障の課題と今後の展望について考える。近年の新たな社会保障の動向について知る。 【授業内容】 配布資料		
13・14	【到達目標】 被雇用者のみが加入する雇用保険について理解する。また、仕事を原因とする傷病や死亡を補償する労災保険について学ぶ。 【授業内容】 第5章第4節「労災保険制度と雇用保険制度の概要」			29・30	【到達目標】 第1回～28回までの総括を行う。期末試験を実施する。 【授業内容】 総括、期末試験の実施・解説・復習		
15・16	【到達目標】 これまで扱われた各種社会保障制度について、それぞれの給付形態や仕組みを説明できるようになる。中間試験を実施する。 【授業内容】 第4章「社会保険・社会扶助・民間保険の関係」 中間試験の実施・解説・復習			【評価について】 五肢択一または択二による定期試験(100点満点)を実施し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 第15回に中間試験、第30回に期末試験、各回で復習のための確認テストを実施する。配布資料や教科書を用いて、各自復習と見直しを行ってほしい。							

科目名 (英)	高齢者福祉 Elderly welfare	必修選択	必修	年次	1	担当教員	永村 武大	
学科・コース	社会福祉士養成科	授業形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分 曜日・時間	後 期 全曜日 5限	
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 特別養護老人ホーム 介護職員・生活相談員・介護支援専門員、居宅介護支援事業所 介護支援専門員 通算20年の実務経験あり								
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) ・施設と居宅サービスでの経験を活かし、それぞれの場での実践(現実)を伝え、受講生自身の進路の参考となる授業を実施する。 ・現場においてソーシャルワークの理論や技術がどのように用いられているかを説明し、即戦力として活躍できる力がつく授業を展開する。 ・双方向のコミュニケーションを大切に、主体的に参加してもらい、それぞれが自らの考えを発信できる雰囲気の中で授業を進める。								
【到達目標】 ①高齢者の特性、高齢者の生活実態と取り巻く環境について学び、高齢者福祉の現状と課題を理解する。 ②介護保険制度を始め高齢者に対する関連法や諸制度について学び、政策や法制度の概要について説明することができる。 ③支援における関連機関や専門職の役割を理解し、事例検討を通じ実践的な視点を持つことができる。								
【使用教科書・教材・参考書】 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士養成講座 2 高齢者福祉』第2版 中央法規				【授業外における学習】 各種の報道で高齢者を取り巻く現状について情報をキャッチしておく。 在住地の自治体の介護保険パンフレットを入手し目を通しておくこと。				
1	【到達目標】 高齢者の定義と社会的、身体的、精神的特性および少子高齢化社会について理解し、説明することができる。 【授業内容】 オリエンテーション 高齢者の定義と特性および少子高齢化社会	9	【到達目標】 高齢者虐待防止法の理解と高齢者虐待防止に求められるソーシャルワーカーの役割を理解する。 【授業内容】 高齢者虐待防止法の概要 高齢者虐待の未然防止					
2	【到達目標】 高齢者の生活実態とこれを取り巻く環境について理解し、我が国の現状と課題について、自分の考えを述べることができる。 【授業内容】 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境	10	【到達目標】 高齢者に対する関連諸制度について理解し、説明することができる。 【授業内容】 認知症基本法 バリアフリー法 高齢者住まい法					
3	【到達目標】 高齢者福祉の歴史と理念について理解し、説明することができる。 【授業内容】 高齢者福祉の歴史と理念	11	【到達目標】 高齢者に対する関連諸制度について理解し、説明することができる。 【授業内容】 高齢者雇用安定法 育児・介護休業法 市町村独自の高齢者支援					
4	【到達目標】 介護保険制度の概要について理解し、説明することができる①。 【授業内容】 介護保険制度の概要(枠組み 財政 保険料等)	12	【到達目標】 高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割について理解し、説明することができる。 【授業内容】 高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割					
5	【到達目標】 介護保険制度の概要について理解し、説明することができる②。 【授業内容】 介護保険制度の概要(介護認定の仕組み等)	13	【到達目標】 高齢者と家族等に対する支援の実践について理解し、ソーシャルワーカーの役割について自分の考えを述べることができる。 【授業内容】 認知症ケア、終末期ケアにおけるソーシャルワーク 高齢者と家族等に対する支援の実践					
6	【到達目標】 地域支援事業および地域包括支援センターについて理解し、説明することができる。 【授業内容】 地域支援事業の内容、地域包括支援センター	14	【到達目標】 高齢者と家族等に対する支援の実践について理解し、ソーシャルワーカーの役割について自分の考えを述べることができる。 【授業内容】 家族の介護負担軽減と就労支援、見取り支援、8050問題、近隣との関係性に課題のある事例の理解 これまでの振り返り					
7	【到達目標】 高齢者に対する関連諸制度について理解し、説明することができる。 【授業内容】 高齢者保健福祉の法体系 老人福祉法、高齢社会対策基本法	15	【到達目標】 高齢者福祉の現状と課題について、自身の考えを述べることができる。 【授業内容】 まとめとフィードバック 定期試験					
8	【到達目標】 高齢者に対する関連諸制度について理解し、説明することができる。 【授業内容】 高齢者保健福祉の法体系 高齢者医療確保法 これまでの振り返り	【評価について】 筆記試験による定期試験(100点満点)を1回実施し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 89～80点＝B評価 79～70点＝C評価 69～60点＝D評価 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)						
【特記事項】 国家試験合格と実践力強化を両輪として、授業を実施する。								

科目名 (英)	障害者福祉	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	外館 礼規
学科・コース	社会福祉養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 金曜 4 限
【実務経験】 地域包括支援センター：虐待・世帯支援、ショートステイ：障害者福祉サービス相談支援、特例子会社：管理者・支援員としての障害者雇用の採用・支援に従事。							
【授業の学習内容】 障害者福祉の制度や歴史、各法律の根拠の理解を深める。 他の制度との繋がり、制度の狭間の理解などソーシャルワーカーとして実際の支援をイメージできるよう、事例検討やグループワークを交えて多様な価値観・選択肢を習得する。							
【到達目標】 ・障害の制度・法律、発展過程や関連について理解する。 ・当事者視点の理解を学び、実践力を身に付ける。 ・障害者福祉だけでなく、他分野を含めた包括的な支援をイメージできる発想力を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座「障害者福祉」 中央法規				【授業外における学習】 自身の言葉・文字で考えや思いをアウトプットする機会を設ける。 障害者福祉に関連、紐づく情報に関心を持つ、調べる。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 【障害】の定義及びその特性について理解する。 【授業内容】 オリエンテーション、自己紹介 事例を通してイメージを深める			9	【到達目標】 【障害者総合支援法】 全体像、理念・経緯・考え方について理解する。 【授業内容】 障害者総合支援		
2	【到達目標】 基本的な考え方となる【理念】 これまでの歴史の背景と展開されてきた流れについて理解する。 【授業内容】 障害者福祉の理念			10	【到達目標】 【障害者虐待防止法・障害者差別解消法・その他関連する法律】 経緯・考え方概要を理解する 【授業内容】 障害者虐待防止法、障害者差別解消法等		
3	【到達目標】 障害者福祉の【歴史】 障害者福祉、障害者の権利について制度、背景を通して理解する。 【授業内容】 障害者福祉の歴史			11	【到達目標】 【各機関の役割・世帯支援】 行政・教育・医療機関等、家族等の役割・世帯支援を理解する。 【授業内容】 事例を通して各関係機関と世帯支援について専門職の役割		
4	【到達目標】 障害者の【生活実態】 ニーズや抱える課題、必要な支援について理解する。 【授業内容】 障害者の生活実態			12	【到達目標】 【障害者雇用】 障害者雇用の実際、企業のソーシャルワーカーの役割を理解する。 【授業内容】 事例を通して障害者雇用、企業のソーシャルワーカーについて		
5	【到達目標】 【障害者基本法】 成立の背景、改正点について流れの中で理解する。 【授業内容】 障害者基本法について			13	【到達目標】 【直近の事例】を通じて 障害者支援の在り方を考える。 【授業内容】 障害者の支援（ソーシャルワーク）について		
6	【到達目標】 【身体障害者福祉法】 目的・対象・経緯、身体障害者手帳について理解する。 【授業内容】 身体障害者福祉法			14	【到達目標】 障害福祉サービスの復習 【授業内容】 これまでの内容、理解度、学生の希望にて決定		
7	【到達目標】 【知的障害者福祉法・精神障害者福祉法】 目的・対象・経緯・手帳制度について理解する。 【授業内容】 知的障害者福祉法、精神保健福祉			15	【到達目標】 障害者福祉に関する知識の確認 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 【児童福祉法・発達障害者支援法】 目的・対象・経緯について理解する。 【授業内容】 児童福祉法、発達障害者支援法			【評価について】 五肢択一または択二による定期試験（100満点）を実施し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 授業を通して、各人の多様な価値観に触れる可能性があるが、否定せずに自身の選択時に繋げること							

科目名 (英)	児童・家庭福祉 (Child and family welfare)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高橋 均
学科・コース	社会福祉養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日・第5限
【実務経験】 埼玉県職員として、リハビリ施設の指導員、県立病院のMSWのほか、児童福祉司等として23年間児童相談所に勤務した。							
【授業の学習内容】 児童相談所における児童虐待対応実践や、社会福祉士会活動の実践経験を踏まえ、子どもと家庭を取り巻く福祉問題や制度について、単なる知識や理念の理解にとどまらず、現状の困難性ややりがいについても言及する。また、1992年に社会福祉士資格取得し、その後の社会福祉士会活動の実践経験を踏まえ、福祉専門職としての職業人の在り方にも触れる。							
【到達目標】 ・社会福祉士資格取得意欲が向上し、国家試験合格できる。 ・社会福祉士として実務能力を身につけ、即戦力としての活動できる。 ・社会福祉士としての基本姿勢(倫理)を理解し、利用者のニーズや心情を的確に把握できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「最新 社会福祉士養成講座専門科目3「児童・家庭福祉第2版」中央法規出版				【授業外における学習】 今、社会福祉を取り巻く状況は激動の時期にあり、なるべく普段から新聞やテレビのニュースなどの社会福祉に関する話題に関心を向ける。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 社会保障全体から「子ども問題」を理解する。また、社会福祉士の役割を理解し、社会福祉士を目指す動機付けとする。 【授業内容】 講義全体のオリエンテーション。子ども家庭福祉の基本とこの分野における社会福祉士の在り方			9	【到達目標】 母子保健や障害児福祉の意義や制度を深く知ることにより、実践力を身につける。 【授業内容】 母子保健制度、障害児福祉制度とその支援		
2	【到達目標】 「子ども、児童とは何か」、「子ども権利」、「子ども家庭福祉の理念」を理解することにより、「子ども家庭福祉」の原理を理解する。 【授業内容】 「子ども、児童とは何か」、「子ども家庭福祉の理念」、「子どもの権利」など「子ども家庭福祉」の原理・基礎			10	【到達目標】 保育や子育て支援の制度が、大きく変わってきた。ここをきっちり理解することで、子育て支援の全体を見通す。 【授業内容】 子育て支援制度・保育制度とその支援		
3	【到達目標】 現状の子ども家庭福祉を取り巻く様々な問題について、全般的に理解することにより、学習の方向性が見通す。 【授業内容】 少子化問題、児童虐待など現代社会の子どもや家庭を取り巻く様々な問題の概観			11	【到達目標】 非行児問題、いじめ問題、スクールソーシャルなどについて理解する。 【授業内容】 非行児への支援、若者支援、スクールソーシャルワーカーの活動		
4	【到達目標】 子ども家庭福祉の歴史を学ぶことにより、先人の努力と子ども家庭福祉の「特質性」を理解する。 【授業内容】 日本や欧米の子ども家庭福祉の歴史			12	【到達目標】 ひとり親家庭支援やDV問題等女性支援は、大きな社会的課題であり、理解を深め実践力を高める。 【授業内容】 ひとり親家庭福祉制度、DV問題とその支援		
5	【到達目標】 子ども家庭福祉にかかわる法制度や実施機関を体系的に学ぶことにより、子ども家庭福祉の全体的なしくみを理解する。 【授業内容】 子ども家庭福祉にかかわる法制度・実施体制			13	【到達目標】 社会的養護を子ども福祉の重要課題として、そして子どもの貧困問題の一課題としても理解する。 【授業内容】 子どもの貧困問題。社会的養護(里親、児童養護施設等)のその支援。		
6	【到達目標】 子ども家庭福祉制度にかかわる施設・専門職を学ぶことにより、それらを有機的なネットワークとしてとらえる。 【授業内容】 子ども家庭福祉制度にかかわる施設と専門職			14	【到達目標】 子ども家庭のソーシャルワークの基本的な視点、援助の過程、ネットワークの在り方等を学び、実践力を向上させる。 【授業内容】 子ども家庭への援助過程を理解する。		
7	【到達目標】 子ども家庭支援と児童相談所、市町村の業務や役割を理解する。 【授業内容】 子ども家庭支援における児童相談所、市町村の役割			15	【到達目標】 これまでの授業で学習したことをもとに、分からない部分を洗い出して、自分の課題を見つける。そして国家試験に合格する。 【授業内容】 定期試験、解答解説		
8	【到達目標】 大きな社会問題となっている児童虐待を、事例を交えながら学ぶことにより、リアルな問題としてとらえる。 【授業内容】 児童虐待問題の実態とその予防施策、介入施策、事後施策			【評価について】 五肢択一または択二による試験を100点満点で実施。評価は以下とする。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 この授業の内容は、他の科目の試験にも出る可能性があるため、科目間で関連付けて学習すると効率的である。							

科目名 (英)	貧困に対する支援	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	佐藤 史子
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金 曜 4 限
【実務経験】 生活保護利用者支援、生活困窮者支援の経験が5年以上ある。							
【授業の学習内容】 貧困の概念、貧困状態にある人々の生活実態を理解したうえで、貧困状態にある人々に対する支援制度(生活保護制度および生活困窮者自立支援制度など)について解説する。さらに相談援助の実際を事例を通して学び、社会福祉士としての適切な支援のあり方、果たすべき役割を解説する。							
【到達目標】 ①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する ②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する ③貧困にかかる法制度と支援の仕組みについて理解する ④貧困による生活課題を踏まえ、福祉専門職としての適切な支援のあり方を自ら考え理解する							
【使用教科書・教材・参考書】 最新 社会福祉士養成講座4「貧困に対する支援」 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 随時文献の紹介				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 社会福祉士が貧困に対する支援を行う意義を理解する 公的扶助の概念を理解する 【授業内容】 公的扶助の概念 オリエンテーション 公的扶助の概念、意義、役割 貧困に対する支援における社会福祉士の役割			9	【到達目標】 生活困窮者自立支援法について理解する 【授業内容】 生活困窮者自立支援制度 生活困窮者自立支援法の理念と概要 各事業の概要 支援の流れ		
2	【到達目標】 貧困の概念を学び、その生活実態や環境を理解する 【授業内容】 貧困の概念 貧困の概念、貧困状態にある人の生活実態および社会環境			10	【到達目標】 さまざまな低所得者対策を理解する 【授業内容】 さまざまな低所得者対策 生活福祉資金貸付制度 無料低額宿泊所 公営住宅制度		
3	【到達目標】 貧困の歴史を概観し、貧困観の変遷や制度の発展過程を理解する 【授業内容】 貧困の歴史 貧困の歴史 貧困観の変遷 貧困に対する制度の発展過程			11	【到達目標】 ホームレス自立支援法 ホームレスの考え方と動向等を理解する 【授業内容】 ホームレス対策 ホームレス自立支援法 ホームレスの考え方と動向 支援施策		
4	【到達目標】 生活保護制度の目的、原理原則を理解する 【授業内容】 生活保護制度 その1 生活保護法の目的 原理原則と概要			12	【到達目標】 貧困に対する支援における公私の役割関係について理解する 【授業内容】 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 その1 公私の役割関係 国、都道府県、市町村、福祉事務所の役割		
5	【到達目標】 生活保護制度の扶助の種類について理解する 【授業内容】 生活保護制度 その2 8つの扶助 最低生活費と生活保護基準			13	【到達目標】 自立相談機関、様々な関係機関の役割を理解する 【授業内容】 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 その2 自立相談支援機関の役割 さまざまな関係機関の役割		
6	【到達目標】 生活保護制度の権利、義務、不服申立て 財源予算について理解する 【授業内容】 生活保護制度 その3 権利、義務、保護施設 不服申立て 財源・予算			14	【到達目標】 貧困に対する支援の実際を学び、福祉専門職としての適切な支援のあり方を自ら考え理解する 【授業内容】 貧困に対する支援の実際 事例 支援における社会福祉士の役割		
7	【到達目標】 生活保護制度に関する動向を理解する 課題について考えることができる 【授業内容】 生活保護制度 その4 生活保護制度に関する動向			15	【到達目標】 これまでの振り返りを通して、理解を定着させる 【授業内容】 定期テスト		
8	【到達目標】 これまでの授業で学習したことを過去問や予想問題実施し、自身の理解度を知る 【授業内容】 前半の振り返り、中間テスト			【評価について】 15回目に実施する定期試験(100点満点)にて評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	保健医療と福祉 (Medical care & Welfare)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	田邊 慎悟
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 月曜 3限
【実務経験】 医療相談員としての実務経験のほか、現在では社会福祉士会における災害対策委員として被災地支援および県内の災害対策を行っている。							
【授業の学習内容】 MSW成立までの歴史を理解すると同時に、診療報酬の仕組み、保険の仕組みといった医療福祉の仕組みを理解する。そして、患者だけではなく、家族を含めた家族システムの視点を養い、多職種連携・協働を踏まえたチームアプローチが考えられるよう、事例を用いながら学ぶ。							
【到達目標】 ①ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。②保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。 ③保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解する。④保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新・社会福祉士養成講座5 保健医療と福祉 中央法規出版				【授業外における学習】 教科書の他にも、新聞やニュースなど医療福祉に関する情報は気にかけるようにしてください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 医療ソーシャルワーカーの歴史を学ぶとともに、基礎的な医療用語を理解する 【授業内容】 オリエンテーション：医療ソーシャルワーク ～MSW/PSWとは？～			9	【到達目標】 医療保険制度及び年金保険制度について理解をする。 【授業内容】 医療保障制度		
2	【到達目標】 岡村重夫が述べる、基本的要求を理解するとともに、意思表示が困難な方の意思決定支援の重要性や死についての受容段階を理解する。 【授業内容】 健康の定義：病が生活に与える影響			10	【到達目標】 障害・児童における公費負担医療について理解するとともに、低所得者に対する医療保障を理解する。 【授業内容】 公費負担医療		
3	【到達目標】 患者にとって家族はどういった存在であるのか。そして家族がもつ力や患者が家族または家族が患者に与える影響について理解をする。 【授業内容】 家族の理解			11	【到達目標】 介護と医療の給付の関係性について理解をする。 【授業内容】 医療保険と介護保険		
4	【到達目標】 ACPの必要性和選定されるまでの歴史を事例を通して理解する。 【授業内容】 ACP(アドバンス・ケア・プランニング)			12	【到達目標】 多職種を理解すると同時に、チーム医療とは何か、そしてチーム医療を行っていくために必要なことを理解する。 【授業内容】 医療専門職との多職種連携・協働		
5	【到達目標】 日本において志望要因に関する疾病を理解するとともに、医療の提供場所の変化と展望について理解をする。 【授業内容】 疾病構造			13	【到達目標】 医療ソーシャルワーカー業務指針、医療ソーシャルワークの歴史、医療ソーシャルワーカーの実践事例から医療福祉問題を理解できる。 【授業内容】 MSWの業務指針と倫理		
6	【到達目標】 ハンセン病の歴史を通して【国家主導の差別】を理解する。あわせて、終末期における支援において留意する点を理解する。 【授業内容】 難病と終末期ケア			14	【到達目標】 1回目～13回目の知識を活用し、事例を通して①患者状況の要約、②考えの言語化、③今後の課題を立案することができる。 【授業内容】 医療福祉アセスメント		
7	【到達目標】 出来高払い方式とDPC方式の理解をする。 同時に、診療報酬が決定するまでの流れを理解する。 【授業内容】 保健医療制度			15	【到達目標】 保健医療の課題を持つ人にかかわり支援を行う社会福祉士としての知識の習得と理解ができる。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 高額療養費制度について、対象および算出方法を理解する 【授業内容】 高額療養費制度および標準額負担限度額適用認定証			【評価について】 筆記試験による100点満点の定期試験を1回実施し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 E評価の場合、面談を実施する。面談内容によって、特別補講を開講するか検討をする							

科目名 (英)	権利擁護を支える法制度 training for nursery staff	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	小熊 永枝
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 6限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 児童養護施設に勤務して29年目。社会福祉士として埼玉県ホームレス支援、居住支援、成年後見、一般社団法人の代表として子ども食堂などの活動を行っている。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 本科目では、自ら権利を主張し、それを守り、適切に行使用することができない人々の権利擁護について理解し、その権利をどのような法制度で守ることができるか考える。特に重要である意思決定支援の概念と用語について理解を深める。また「自身の権利行使の自由を守るために、他者からの介入を認める」という意味で、自身の後見活動に基づき成年後見制度の必要性について解説を行う。その上で、ソーシャルワーカーとして、当事者の権利擁護のための「最善の方法」を主体的に考察する視点を養う。							
【到達目標】 ①法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。②権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。③権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実践について理解する。④権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。⑤ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 中央法規出版 最新社会福祉士養成講座 第9巻(第2版) 「権利擁護を支える法制度」(2025年1月1日発行)・各種映像				【授業外における学習】 授業を受けるに当たり、専門用語の下調べなどの予習や授業後の復習を行い、授業内容を深く理解する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 権利擁護に必要な法制度について理解する。 憲法の役割と概要を知る。 【授業内容】 第1章 ソーシャルワークと法のかかわり			9	【到達目標】 権利擁護にかかわる組織、団体の概要について学ぶ。 権利擁護にかかわる様々な専門職の役割について理解する。 【授業内容】 第5章 権利擁護にかかわる組織、団体、専門職		
2	【到達目標】 権利擁護にかかわる民法の基本となる原則を理解する。 行政活動の形式とその特徴を理解する。 【授業内容】 第1章 ソーシャルワークと法のかかわり			10	【到達目標】 法定後見制度の概要について理解する。 後見・補助・保佐の違いについて理解する。 【授業内容】 第6章 成年後見制度		
3	【到達目標】 我々を取り巻く決まり事の種類について理解する。 法の種類と制度について理解する。 【授業内容】 第2章 法の基礎			11	【到達目標】 任意後見制度の概要について理解する。 成年後見制度の利用動向について把握する。 【授業内容】 第6章 成年後見制度		
4	【到達目標】 判例の意義と種類を理解する。 権利擁護と判例の関係を理解する。 【授業内容】 第2章 法の基礎 判例検討			12	【到達目標】 我が国の少子高齢化の現状を知り、少子化対策の展開と保育所の役割を理解する。 【授業内容】 第6章 成年後見制度		
5	【到達目標】 権利擁護が打ち出された背景を理解する。 福祉サービスの適切な利用と苦情解決について理解する。 【授業内容】 第3章 権利擁護の意義と支える仕組み			13	【到達目標】 法定後見制度がどのような形で進んでいくのか、実例をもとに理解を深める。 【授業内容】 第6章 成年後見制度		
6	【到達目標】 虐待・暴力防止関係法の概要を理解する。 障害者差別解消法の概要を学び、合理的配慮のあり方を知る。 【授業内容】 第3章 権利擁護の意義と支える仕組み			14	【到達目標】 これまでの授業で得た知識を定着させるために、学習内容を振り返る。 【授業内容】 定期試験にむけて、学習の振り返り		
7	【到達目標】 支援付き意思決定支援は基本的人権として保障されていることを理解する。 意思決定支援ガイドラインについて理解を深める。 【授業内容】 第4章 権利擁護活動と意思決定支援			15	【到達目標】 これまで学習してきたことをもとに、様々な問題が解けるようになる。また、国家試験に向けて、自己の課題を見つけ今後の学習に生かす。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 インホームド・コンセントの概念と成立について学ぶ。 個人情報保護法と守秘義務について学ぶ。 【授業内容】 第4章 権利擁護活動と意思決定支援			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	刑事司法と福祉	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	栗林 正彦
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 火 曜 3 限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 現在保護司として保護観察所と連携を保ちながら、加害者への更生支援に当たっている。地域包括支援センター及び各種施設での管理者を歴任し相談援助を行ってきた。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 刑事司法は「刑罰」を中心とした制度である一方、福祉は「支援」や「回復」を重視する制度である。本授業では、両者が対立するものではなく、相互に補完し合う関係にあることを、理論・制度・事例の検討を通じて明らかにする。再犯防止、被害者支援、司法福祉の実践など、現代社会における重要課題を扱う。							
【到達目標】 ・本授業では、刑事司法制度と福祉制度の接点に着目し、犯罪・非行・被害の背景にある社会的要因を理解することを目的とする。 1. 刑事司法制度の基本構造と役割を理解する。 2. 犯罪・非行と貧困、障害、依存症、家族問題などの関係を説明できる。 3. 加害者・被害者双方に対する福祉的支援の意義を理解する。 4. 刑罰と福祉の関係について述							
【使用教科書・教材・参考書】 「最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座10刑事司法と福祉」(中央法規)一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集				【授業外における学習】 日常から起こり得る事件報道等について意識を傾け、授業で学んでいることと照らし合わせながら理解を深める。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 ガイダンス、第1章「刑事司法と福祉」総論 【授業内容】 刑事司法にソーシャルワーカーが係わる理由、支援にあたって求められる姿勢、刑事司法と福祉の関係がどう展開してきたかを理解する。			9	【到達目標】 第8章 施設内処遇② 少年 【授業内容】 少年院および少年鑑別所の組織体制と処遇について確認し、少年院における矯正教育のあり方と社会復帰支援を理解する。		
2	【到達目標】 第2章 社会と犯罪 【授業内容】 日本の犯罪の状況と、その現象を把握し刑事司法の特徴と問題を理解する。			10	【到達目標】 第9章 社会内処遇の理論と実践 【授業内容】 更生保護の意義と歴史を確認し、更生保護制度の概要を学び、ソーシャルワーカーの役割・課題、ネットワークについて理解する。		
3	【到達目標】 第3章 犯罪原因論と対策 【授業内容】 犯罪原因論に基づく犯罪への対応について学び、その限界を把握し、犯罪対策について考える。			11	【到達目標】 第10章 多様なニーズを有する犯罪行為者① 精神障害者を対象とした医療観察制度 【授業内容】 医療観察制度の概要と社会復帰調整官・地域のソーシャルワーカーの役割を理解する。		
4	【到達目標】 第4章 刑罰とは何か 【授業内容】 刑罰の本質と機能を知り、刑罰の適用状況を把握すること。			12	【到達目標】 第11章 多様なニーズを有する犯罪行為者② 高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉 【授業内容】 司法と福祉の連携の展開、地域生活定着支援センターの役割と機能について確認し、高齢者・障害者の特徴を把握し、支援と課題を理解。		
5	【到達目標】 第5章 刑事司法 【授業内容】 刑事手続の実態と、刑事手続におけるクライアントの扱われ方を知ったうえで、本人と向き合うことを理解する。			13	【到達目標】 第12章 多様なニーズを有する犯罪行為者③ アディクションを抱える人と刑事司法 【授業内容】 アディクションについて、ソーシャルワーカーは適切にそのメカニズムを理解し、地域社会の協力を得ながら支援することを理解する。		
6	【到達目標】 第6章 少年司法 【授業内容】 少年による非行・犯罪がさまざまな社会問題や少年自身のニーズと切り離せないものであることを理解し、少年と向き合う。			14	【到達目標】 第13章 犯罪被害者等支援 【授業内容】 犯罪被害者等支援に関する制度の概要を把握し、支援における考え方、そして支援の実践を理解する。		
7	【到達目標】 第7章 施設内処遇① 成人 【授業内容】 刑務所の生活の枠組みを知り、受刑生活の本人への影響を考える想像力を養う。			15	【到達目標】 第14章 コミュニティと刑事司法、まとめ 【授業内容】 定期試験・これまでの学びを振り返る。		
8	【到達目標】 中間振り返り(学習チェック) 【授業内容】 第1章から第7章の振り返りとまとめ。			【評価について】 五肢択一または択二による定期試験を100点満点として実施。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 講義中心の授業となると常に受け身になるが、まずは聴く姿勢を培う。(対人援助においては、聴くことが相談の第一歩)また、その際自分自身でも「考える」という習慣を付ける。							

科目名 (英)	ソーシャルワーク演習 (Practice for Social work)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	安達保雄／田邊 慎悟
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期(第1クール) 木曜 1・2 限
【実務経験】 医療機関をはじめ、社会福祉協議会や保育分野における相談援助等、ソーシャルワーク実務経験のある教員(社会福祉士)が担当する。							
【授業の学習内容】 個人ワークやグループワークを中心に、一人ひとりが自己に向き合い、また互いに意見を交わす中でソーシャルワークの価値・知識・技術を実践的に理解する。							
【到達目標】 ①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 ワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。 に必要なコミュニケーション能力を養う。							
②ソーシャル ③ソーシャルワークの実践							
【使用教科書・教材・参考書】 学習課題に沿って教員が作成したレジュメ				【授業外における学習】 社会や身の回りに起こった出来事を通じて、自分自身の考え方の癖や「人間の尊厳」の大切さについて、改めて問い直し、考察を深める			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 社会福祉士が活躍する主なフィールドを調べ、それぞれの場所で求められる役割を説明できる。 【授業内容】 演習の目標・ねらいを理解する。 社会福祉士が勤める場所とその役割、仕事内容について調べる。			9	【到達目標】 F-SOAP方式による記録法を学ぶことで、情報の主観と客観を区別した記録作成の方法について意識できる 【授業内容】 身近にある記録とF-SOAP方式による記録①ー1		
2	【到達目標】 支援の背景には、ソーシャルワーカーとしての価値や倫理が根底にあることを理解する。 【授業内容】 ソーシャルワーカーに求められる倫理			10	【到達目標】 F-SOAP方式による記録法を学ぶことで、情報の主観と客観を区別した記録作成の方法について意識できる 【授業内容】 身近にある記録とF-SOAP方式による記録①ー2		
3	【到達目標】 自己とは何かを自身の環境から思索し、自己理解に繋がるよう試みることができる。 【授業内容】 自己理解を通じて、人と環境の相互作用を考える。			11	【到達目標】 ソーシャルワークの展開過程について理解する 【授業内容】 ソーシャルワークの展開過程と関連技法①ー1		
4	【到達目標】 自分の内側にある価値観を「見える化」し、自己理解を深める。 また、多様性を理解する。 【授業内容】 自分と他者の価値観の違いに気づき、自己理解と他者理解を通じて、人と環境の相互作用を考える。			12	【到達目標】 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク)までの流れを理解する 【授業内容】 ソーシャルワークの展開過程と関連技法①ー2		
5	【到達目標】 多様な視点から人を理解する大切さに気づく 【授業内容】 事例を通し、多様な視点から人を理解することを体験的に学ぶ			13	【到達目標】 情報収集を行い、情報分析、ニーズを明らかにしていくアセスメントを理解する 【授業内容】 ソーシャルワークの展開過程と関連技法②ー1		
6	【到達目標】 多様な視点から人を理解する大切さに気づく 【授業内容】 事例を通し、多様な視点から人を理解することを体験的に学ぶ ライフストーリーを作成する			14	【到達目標】 情報収集を行い、情報分析、ニーズを明らかにしていくアセスメントを理解する 【授業内容】 ソーシャルワークの展開過程と関連技法②ー2		
7	【到達目標】 言語と非言語コミュニケーションについて理解する 【授業内容】 基本的コミュニケーション			15	【到達目標】 社会福祉士として求められる基礎的なソーシャルワーク能力を涵養する。 (授業のふり返り) 定期試験 【授業内容】 ソーシャルワーク演習(共通)の授業をふり返る		
8	【到達目標】 クライアントとの信頼関係を築く技術を習得する。 【授業内容】 面接技術			【評価について】 筆記試験による100点満点の定期試験を1回実施する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 E評価の場合、担任面談等を踏まえた上で、特別補講を開講するか検討する							

科目名 (英)	ソーシャルワーク演習(専門) (Practice for Social work)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	佐藤 史子/安達 保雄/田邊 慎悟
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	演習	総単位 時間	120	開講区分 曜日・時間	通年 木曜 3・4限/火曜 3・4限
【実務経験】 医療機関や障害者施設や高齢者施設等において、社会福祉士の資格取得後5年以上のソーシャルワークの実務経験がある教員が担当。							
【授業の学習内容】 社会福祉士としてソーシャルワーク業務に従事した教員が、実務で経験してきた多様な事例を基に、これまでの学びを実践につなげられる力を養う教育を行う。本科目は、社会福祉士の理論・方法・技術・価値と実践(実習)との融合を実証する。個人ワークやグループワークを中心に、一人ひとりが自己に向き合い、また互いに意見を交わす中でソーシャルワーカーとしての価値を深める。							
【到達目標】 ①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てる能力と、倫理的な判断能力を身につける。②支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。③地域アセスメントや評価の仕組み、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの発展過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。④事例検討や事例研究を行い、意義や方法を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 学習課題に沿った講師作成のレジュメ				【授業外における学習】 各自、日々の報道等の情報に関心を向け、社会の動きを捉えること。			
回(2コマ)	授 業 概 要			回(2コマ)	授 業 概 要		
1	【到達目標】 ソーシャルワーク実践の理解①			32・33	【到達目標】 司法ソーシャルワークの理解		
2・3	【授業内容】 医療保険制度の理解と実践 歪んだ信頼関係における事例検討			34・35	【授業内容】 府中刑務所の見学を通して、司法領域におけるソーシャルワークの展開についての学びを深める		
4・5	【到達目標】 ソーシャルワーク実践の理解②			36・37	【到達目標】 府中刑務所の見学を終えて、司法領域におけるソーシャルワークの展開について報告ができるようになる。		
6・7	【授業内容】 介護保険制度における仕組みの理解と実践 障害における制度および関連法の理解			38・39	【授業内容】 社会的自立を踏まえた上で、司法領域におけるソーシャルワークの必要性を報告することができるようポスターにてまとめ報告		
8・9	【到達目標】 基本的な面接技術・コミュニケーション技法の理論を学び、体験(ロールプレイ)を通して技術・技法理解し、習得する。			40・41	【到達目標】 各領域毎にグルーピングし、各領域における歴史、現状、課題、解決案などをまとめる。		
10・11	【授業内容】 事例検討及びOSCE			42・43	【授業内容】 関心のある領域に分かれ、教員指導のもと調査等を実施する。		
12・13	【到達目標】 基本的な面接技術・コミュニケーション技法の理論を学び、体験(ロールプレイ)を通して技術・技法理解し、習得する。			44・45	【到達目標】 調査内容をまとめ、プレゼンテーション資料を作成し、発表する		
14・15	【授業内容】 OSCE実施試験 ※前学期終了				【授業内容】 ソーシャルアクションの1つの方法として、他者へのプレゼンテーションを実施 ※年内終了		
16・17	【到達目標】 ハンセン病に対する差別と疾病の理解			46・47・48	【到達目標】 ソーシャルワークにおける学問的理解①		
18・19	【授業内容】 東京都清瀬市にあるハンセン病資料館への訪問。訪問前に事前学習を行い、現地での学びの理解を深める			49・50・51	【授業内容】 医学概論や心理学等で学んだ内容を横断的に理解する		
20・21	【到達目標】 ハンセン病資料館の訪問を終えて、Swrとして人、社会に対してのアプローチ方法を報告することができる。			52・53・54	【到達目標】 ソーシャルワークにおける学問的理解②		
22・23	【授業内容】 ポスター発表としてハンセン病に対してSwrとしての考察やアプローチ内容等を報告ができるようにまとめる。			55・56・57	【授業内容】 医学概論や心理学等で学んだ内容を横断的に理解する		
24・25	【到達目標】 精神疾患における差別および偏見等の理解を深める			58・59・60	【到達目標】 ソーシャルワークにおける学問的理解③		
26・27	【授業内容】 都立松沢病院への訪問を通して、精神疾患の方々の生活を知るとともに、差別や偏見を学ぶ。				【授業内容】 医学概論や心理学等で学んだ内容を横断的に理解する		
28・29	【到達目標】 都立松沢病院への訪問を終えて、精神障害に対してのアプローチ方法を報告することができる。			【評価について】 筆記試験による100点満点の定期試験を2回実施。点数を合算し試験回数で割り、以下に換算して評価する。			
30・31	【授業内容】 ポスター発表として精神疾患に対してSwrとしての考察やアプローチ内容等を報告ができるようにまとめる。			○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価			
【特記事項】							